

縁側めぐり

目安の
所要時間

60 ~ 90 分



おすすめ
展示棟番号

市街地群

(5) (6) (7) (23) (28)

漁村群

(35) (44) (46) (48)

農村群

視点

開拓の村の建物にみられる縁側は、次のように見ることが出来ます。

家族の空間

庭に面した縁側は、くらしの中で季節のうつりかわりを感じられる場所でした。家族団らん、庭をながめてゆっくりする姿がうかびます。冬は冷気に凍えながらも、ガラス戸から差し込む光がまぶしく感じられたでしょう。

*庭を眺める、読書・昼寝・談笑など、くつろぎの場所、部屋と部屋をつなぐ廊下。



⑤旧福士家住宅



⑥旧松橋家住宅



⑦旧有島家住宅



⑧旧広瀬写真館



⑬旧武岡商店

外部とのコミュニケーションの場所

玄関わきの開口部分は、来訪者との交流の場でした。外仕事の続きの作業も行いました。

*靴を履いたまま訪問者と交流できる場所、外仕事の続きができる場所、くつろぎの場所



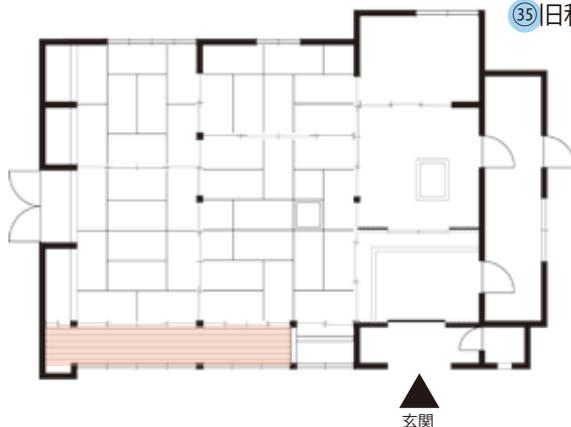
⑳旧秋山家漁家住宅



㉑旧岩間家農家住宅



㉒旧菊田家農家住宅

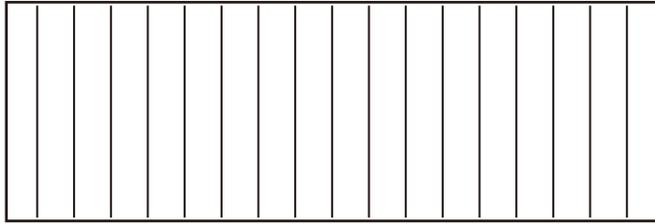


㉓旧樋口家農家住宅

縁側の板の向き

縁側には敷居に対して垂直に板が並ぶものと、平行に並ぶものがあります。これは原木から板材へと加工する技術の変化とも関係しており、材

木を角材や板材に加工する製材が機械化される以前に建築された古い住宅では、垂直に並ぶ縁側が多くみられます。



垂直に並ぶ縁側



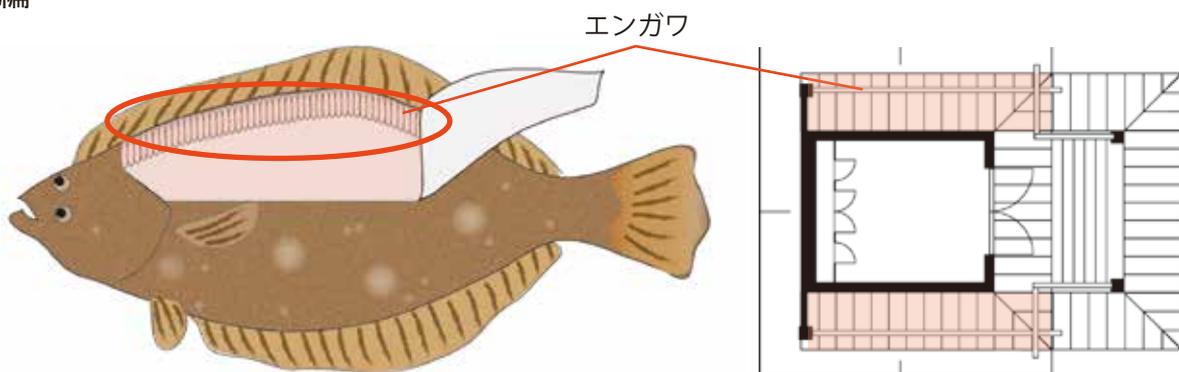
平行に並ぶ縁側



北海道に移住した人びとは、厳しい寒さと雪への対策として、建物にはできるだけ外気が入らないように、開口部分を少なくする工夫をしてきました。そのため、開口部が広く雨戸やサッシを閉めていても寒気が入りやすい「縁側」は、北海道の建物から次第に姿を消していきました。

開拓の村には明治から昭和初期までの建物が 52 棟ありますが、「縁側」のある建物がいくつもあります。北海道でも縁側のある住宅が多く存在していたことを確認しましょう。

番外編



上図

ヒラメ・カレイの  の部分は、江戸時代より寿司ネタとして親しまれていて、寿司用語でエンガワと呼ばれています。ヒラメの背びれと尻びれの基部でひれを動かすための筋肉部分と、旧信濃神社の外縁部分のように敷居に対して垂直に板が並ぶ縁側とが結びついて発想されたようです。

